

保護者の皆様

狛江市立狛江第五小学校長

小宮山 詠美

6月の安全指導について

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

6月の安全指導は以下のとおりです。6月は梅雨の時期で、雨の日が多くなります。風雨が強い日の雨具の扱いや、河川の増水への危険性から身を守るための安全な行動について、ご家庭でも改めてご確認ください。

○実施内容 【天候による災害時の安全な行動を知ろう】(風水害+放射線)

☆悪天候になりそうなときは…

- 雨や風が強くなりそうなときは、外出を控える。
- 雷の音が聞こえてきたら、建物の中に避難する。
- 竜巻の発生に気付いたら、近くの頑丈な建物に避難する。
- 特別警報等気象災害に関する情報をこまめに確認する。

傘が風にあおられると、車道に飛び出したり、傘の骨が折れたり、大変危険です。

☆雨具の扱い・道路の歩き方について

- 風が強いときには、傘を使用せず、雨合羽などを着る。
- 視界が狭くなるので、特に前方や周りをよく見て歩く。
- 天候問わず、道路に広がって歩かない。

雨のときは車の運転手も歩行者が見えにくくなります。

☆河川の増水について

- 大雨のときは、川に近付かない。
- 川遊びをしているときに天気が悪くなってきたら、早めに川岸から高い所へ上がる。

大雨が降ると川に流れ込む水が増え、氾濫する危険があります。水は、膝ぐらいの高さでも流れの勢いが激しいと足をすくわれて転び、流され命を落とすこともあります。また、天気がよくても、川の上流で大雨が降っていると川の水が急に増水することがあります。上流の天気にも注意が必要です。

◎放射線について…

東日本大震災では津波による災害で原子力発電所に大きな被害がありました。その際、人体や様々な生物に影響を与えるほどの放射線がもれ、今でも発電所の近くでは立ち入りが制限されているエリアがあります。放射線は自然界の中に存在し、私たちも毎日触れたり体の中に取り入れたりしているものですが、放射線の量が大量になると、命を落とす危険もあります。放射線に関する正しい知識をもつことや、間違った情報を流さないことが大切です。

なお、学校では、「[小学生のための放射線副読本](#) (文部科学省)」の内容に基づき、発達の段階に応じて指導しました。